



## JMAS 活動報告

2011年春号

### 東日本大震災で被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます

JMASは3月18日から外国NGOと協働して災害救援活動を行いました。(6面に掲載)

### 2010年度カンボジア安全な村づくり(コマツプロジェクト)終了

2011年3月7日、バタンバン州チサン村において、カンボジア政府からプラック・ソコン地域復興大臣、日本側から在カンボジア日本大使館川村公使及びコマツの駒村副社長、その他多くのVIPゲストや地域住民等1300人もの人々が参加して、機械による地雷除去を完了した土地への入植式典が行われました。安全になった土地に500世帯が入植し、1家族あたり1000㎡の土地が国から譲渡されました。入植後5年の間に住居を建設すれば個人の所有地になります。自分の土地を持つことができなかつた人々にとってはこの上もない喜びです。3校目となる小学校も新築され入植者の子供達は、これから3つの教室のほか職員室、トイレ、井戸を備えた校舎で安全に勉強できるようになりました。また、雨季でも通行可能な道路や井戸、農業用ため池も整備され村の復興に寄与します。

式典にはTV局を始め多くのカンボジアのメディアが取材に訪れ、全国に報道されました。



式典の壇上に並ぶ大勢のVIP



新築校舎をバックに村民、VIPゲスト、JMASスタッフの記念撮影



記念品をプレゼントするコマツ駒村副社長



挨拶をする野中理事長



今年度は3基の井戸が完成



3.5kmの道路が完成

### ラオス・シェンクワン県における5年間の不発弾処理完了

不発弾による被害が最も多い国の一つであるラオスの中でも汚染度が高く、不発弾との戦いの象徴的な地域であるシェンクワン県において、5年間に亘り実施してきた不発弾処理事業は、処理発数約7万発、処理面積約2,300haという成果をもって、3月11日に終了しました。

この間、6名の不発弾処理専門家が自衛隊で培った不発弾処理技術を国立の不発弾処理組織である「UXO Lao」の隊員に伝授し、各隊員は自信をもって不発弾を処理できるようになりました。



感謝状を受賞した中塩(左)、刈屋(右) 不発弾処理専門家

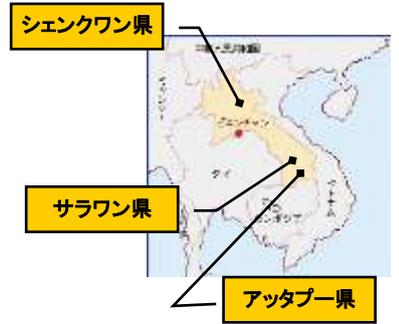
### 認定NPO法人 日本地雷処理を支援する会

世界中の紛争跡地には今なお膨大な数の地雷・不発弾が残されたままであり、人々が厳しい環境の中で生活しています。JMASは、専門技術を有する自衛隊OBが中核となって2002年設立し、世界各地で地雷・不発弾処理プロジェクト等を行い、安全な環境を造っています。

# ラオス不発弾処理

昨年4月から開始されたラオス最南部アッタプー県における不発弾処理は順調に進捗しており、中條専門家は現地の隊員達の信頼を得て、大型爆弾等の処理技術の委譲及び村民に対する啓蒙教育の支援を行いました。(今年度事業は申請中)

新たにサラワン県において、日本の企業と連携して薬草栽培用地や工場用地の安全化のための不発弾処理を開始する予定であり、NGO連携無償資金協力を申請中です。さらにシエンクワン県において改良対人地雷除去機によるクラスター子弾処理のパイロット事業を今年後半から開始できるように準備を進めています。



信管確認作業



爆破処理の準備完了



ローターの爪を改良してラオスで使用予定のコマツ対人地雷除去機



処理現場での昼食



啓蒙教育終了後文房具をプレゼント



ビエンチャン事務所、黒川(左)、濱岸(右)



中條専門家 (アッタプー県担当)

# アンゴラ地雷処理・地域復興

事業の開始以来、4年目を迎えた新年は、「仕事始め」の安全祈願でスタートしました。雨季に入り雷雨等に悩まされましたが、現地のスタッフ16名(日本人4名、アンゴラ人12名)一丸となって、時に不発弾を処理し、器材を整備し、新たなC処理ゾーンに取り掛かりつつ、事業は概ね計画どおりに進捗しています。また、アンゴラ政府の土地利用の要請に基づき、処理計画の見直し・検討を行っています。この間、日本大使はじめ館員、企業、INAD、報道関係の多くの皆様が、視察、激励、取材等に来訪されました。



新年安全祈願



除去機操作指導中の専門家



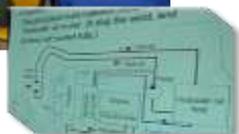
越川在アンゴラ日本大使、齋田アフリカ第2課長の視察受け



左から福、近藤、土井、奥野



コマツの技術者による現地技術指導



# 海外のスタッフを紹介します



## アンゴラ地雷処理専門家(機械操作担当) 福 栄重(ふく えいしげ) 57 歳

プロフィール: 鹿児島県出身、昭和46年陸上自衛隊入隊、東部方面輸送隊、輸送学校、武器補給処十条支処、補給統制本部勤務を経て中央輸送業務隊を最後に平成19年定年退官

私は、定年後福祉関係の仕事をするつもりで準備を進めていましたが怪我のため就職の機会を逃し療養していました。



機材整備で隊員を指導する福専門家(中央)

翌年、ある駐屯地の創立記念行事に参加した際、大先輩からアフリカ(アンゴラ)のお話があり、面接を受けましたが、その後連絡がないので諦めていたところ、突然電話があり「おーアフリカ行きビザ申請し、来月来てくれ！」との連絡がありました。

その方は、現在のアンゴラ現地代表です。7月中旬何とかアンゴラに着任しすぐに仕事にかかるものと思いましたが、NGO 登録や覚書締結が進まず、現地代表は毎日のごとく奔走し、ようやく10月から現地隊員の教育が開始されました。翌年4月中旬から本格的に地雷処理開始となり、現在に至っています。

隊員達が、自らの力でやって行くにはまだまだですが、一日でも早く出来るように見守って行きたいと思います。この間、支援企業様及び在アンゴラ大使館、アンゴラ在住の日本の皆様方より多大なご支援・ご理解をいただき心から感謝申し上げます。

今後ともご支援・ご鞭撻を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。



## カンボジア不発弾処理専門家 古賀 美好(こが みよし) 63 歳

プロフィール: 福岡県出身、昭和40年陸上自衛隊入隊、第4武器隊、特別不発弾処理隊、九州補給処等で弾薬業務に20数年従事し、平成13年8月九州補給処富野支処を最後に定年退官

私は、平成20年カンボジアに赴任し、コンポンチャム州を担当していましたが、昨年10月世界遺産「アンコールワット」があるシェムリアップ州で新たに不発弾処理事業が行われることになり、当地の担当になりました。活動開始当初は情報不足もあり、なかなか不発弾の月間回収目標を達成することができませんでしたが、現在は順調に進んでいます。

回収される不発弾は主に迫撃砲弾であり爆弾はほとんど発見されませんので、処理隊員に爆弾処理の知識・技能をいかに付与するかが課題です。また、私が指導する不発弾処理チームは、JMAS と一緒に活動するのが初めてであり JMAS の考え方、勤務に対する心構え等を指導するのに苦労していますが、技術の委譲と併せ『現場で共に汗を流し“やって見せる”』をモットーに指導し、少しずつですが成果が現れてきました。



アンコールワット前にて



古賀専門家と不発弾処理チーム

この先まだまだ色々な事があるかとは思いますが、この地で勤務できる事に感謝するとともにカンボジアから不発弾による事故がなくなり、学校の教科書に不発弾等の掲載がなくなるため少しでも寄与出来る様に精一杯努力して行きたいと思っています。



## カンボジア地雷処理専門家 佐古 壽聰(さこ ながとし) 65 歳

プロフィール: 岡山県出身、昭和43年陸上自衛隊入隊、第9施設大隊、施設学校、陸幕施設課器材班、施設補給処、東部方面総監部移転計画室、第3施設団105器材隊長、宇都宮駐屯地業務隊長を最後に平成13年に定年退官

今年1月、バタンバン州において実施中の住民参加型地雷処理(CBD)の主任として着任しました。自衛隊在任中にPKO活動が始まりましたが、参加する機会がありませんでした。この様な国際貢献活動に寄与出来ないかとの思いがあり、第二の就職中から、退職後はJMASで少しでも寄与できればと思いお願いをしていたところ、カンボジアはどうかと言う話があり、多少の不安はありましたが快く引き受けた次第です。



地雷探知員



発見された対人地雷

着任した場所は、カンボジアの首都から約450km北西でタイとの国境の村タサエンです。地形は北海道と同じく見渡す限りの平地、文化は日本の40年前と同じで、電気は主要道路沿いにしか無く、家庭の燃料は炭、明かりはバッテリー、便所は野外、乾季は水が無い、このような悪環境の下で地雷と一緒に生活している人達のため、私達は地雷を処理することのほか、井戸・道路を建設し村の安全の確保と復興に寄与しています。今後とも皆様の暖かい支援を頂きますようお願いいたします。



## 前ラオス不発弾処理専門家 中塩 孝(なかしお たかし) 67 歳

プロフィール: 鹿児島県出身、昭和34年陸上自衛隊武器学校に入校、安平・吉井・多田弾薬支処、北部方面総監部付隊、第11武器隊(第2次カンボジア派遣施設大隊)勤務を経て安平弾薬支処勤務を最後に平成9年定年退官

私は、昨年5月から本年3月まで2回目のラオス勤務をしました。昨年11月ラオスで「クラスター爆弾禁止条約締約国会議」が開催され各国代表の現場視察がありました。ラオス不発弾処理機関シェンクワン事務所は9月から受察の準備を始め所長や我々専門家も一緒になって説明要領などを指導しましたが、隊員達は「笛吹けど踊らず」の状態でした。

そんな中で9月、女性リーダー率いる女性不発弾処理チームが誕生しました。珍しいので訪問者が来るとこのチームの現場を見せました。その為かチーム全体が引き締まり好評を得た為、男性組も負けまいと頑張るようになり、当日は素晴らしい説明・展示をすることができ、視察者にクラスター爆弾を強くアピールすることができました。



女性チームに雷管口締め器の使用法を指導

業務終了に際しては、隊員達からもう少し長く支援して欲しい、ずっと一緒に仕事をしたいと日本・JMASに対する支援要望が強くありました。5年間で延べ6名の専門家が隊員達と一緒に行動した成果が、今後も彼等の仕事の中に活かされると思います。

沢山の人の支えられて仕事が出来た5年間と思い皆様方に深く感謝申し上げます。

# カンボジア不発弾処理

2010年度不発弾処理事業は2006年度から継続中のコンポンスプー州の他、新たにシェムリアップ州及びタケオ州を加えた3個州で活動し、被害者の減少と安全地域の確保に貢献しております。



2010年12月17日先崎会長(左)の現場視察を受け状況を報告する古賀専門家(右、シェムリアップ州担当)

安全化した大型爆弾を回収する丹田専門家(前列左)(コンポンスプー州・タケオ州担当)

## カンボジア地雷処理 (住民参加型: CBD)

カンボジア北西部のバタンバン州タサエン村における住民参加型(処理隊員の半分が地元採用)の地雷処理は順調に進捗し約400個の地雷を発見・処理しました。当地での地雷事故は最近ありませんでしたが、今年3月農民が発見した対戦車地雷を元軍人が除去中に爆発し、死亡する事故が起こりました。地雷を除去するとともに計画的に危険回避教育を行い被害減少に努めていますが依然として地雷の事故は散発しています。

地雷処理の跡地は農地として活用され主にダムロン(芋)が植付けられています。芋は毎年値上がりし村は少しずつ豊かになっています。

また地雷を処理した跡地に、国の事業として初めての村道が建設されており、道路沿いには新しい家が



左から新井、亀井、丹田、今井、渡邊、高木、高田、佐藤、古賀、佐古



国の事業による道路の起工式に集まった村人達



地雷原処理跡地に植えられたダムロン畑



校庭での危険回避教育



大きな幹線道路と新しい家

# アフガニスタン地雷・不発弾処理

今年度は、目標どおり約14万㎡の地雷原を安全化しました。これにより、バグラム地区における住民の地雷による事故は、昨年4件から3件に、死傷者は8名から3名に、確実に減少しています。これは人家近くの地雷原が処理されたこと及び啓蒙教育の成果と考えられます。こうしてバグラム郡には逐次、安全な生活基盤が確立されつつあります。

さらに、地雷処理隊員の制服に日の丸を付けて活動させ、国連地雷処理調整センター会議へのオブザーバー参加、アフガニスタン政府への報告や地域の人々との交流を通じて日本の貢献を国際社会に認知させることができました。



地雷処理現場の視察



地域の人々との交流



地域の人々を治療するJMAS医師



左から櫻井、寛、横山

# パキスタン水道改善

パキスタン・マリー地区で実施中の水道改善事業は、この2年間で4個の村、8,900人（1,300世帯）が利用できる水道水供給システムを機能回復させました。村の中に数個の貯水タンクを建設することにより、水壺を頭に載せて往復2km以上の道程を日に何往復もして水汲みをする女性や子供たちの重労働を軽減できました。また、山頂にある水源には保護タンクを建設し、地中に埋めた導水管で村の貯水タンクへ安全な水を常時供給できるようになりました。

これにより、渇水期の水不足に悩むこともなくなりました。このシステムは、地元住民が水道組合を組織して維持管理し、日本の皆様からの贈り物と感謝して大切に使っています。



完成したタンクから水を汲む女性



水源タンクの建設



導水管補修教育



完成した貯水タンク



水質検査教育

# 東日本大震災の災害救援活動

JMASは、3月18日から、シンガポールのNGO「Mercy Relief(MR)」とともに多くの企業、隊友会及び自衛隊協力会などのご支援を受けて、設立以来初めてとなる災害救援活動を、主として秋田、岩手及び宮城の各県において行いました。JMASは、国際活動の実績を踏まえてMRと協働し、現地での活動内容は、ニーズの把握、救援物資の買い付け・輸送、物資集積所・避難所等への提供及びこれらに係る諸調整などでしたが、自治体や自衛隊の皆様のご協力も得て、迅速かつ効果的に行うことができました。

被災された地域の日も早い復興をお祈り申し上げます。



林第9師団長(右)から状況を伺うハッサン氏(左)



物資集積所での搬入作業



小渕第7師団副師団長(中央)から生活支援の状況を伺うデリック氏(左)、高倉理事(右)



物資集積・交付所での調整



物資の引渡し



物資集積所への搬入



小鯖市会議員(中央)に提供食品紹介



協力者と共に災害対策の担当官と調整する小森顧問(右端)

《現地救援活動の参加者》  
 顧問 小森 重信  
 副理事長 奈良 暁  
 理事 高倉 文敏  
 研究員 柳澤 孝興  
 " 新山 貞一  
 " 渡邊 智央  
 《本部連絡調整担当》  
 職員 大田 保重

## 事務局

JMASは、外務省からNGO連携無償資金協力を受けるとともに会員はじめ多くの方々のご支援をいただき活動しています。

昨年12月10日、NHK教育TV「視点・論点」に野中理事長が出演し「オヤジたちの国際貢献」と題してJMASの活動を紹介



昨年12月16日、都内で開催された経済同友会主催の『CSRシンポジウム』に参加し展示及びプレゼンテーションを実施



3月4日、第15旅団永井3曹他2名の若手自衛官の皆さんが事務局を見学(事務局は防衛省正門前で。お気軽にどうぞ)



4月7日、BSフジ「プライムニュース」に先崎会長が出演し東日本大震災救援活動について意見交換



外務省「2010年版ODA白書」の表紙に地雷処理写真、本編コラムに水道改良事業内容が掲載



## 【人事往来】

【役職】	【新任】	【退任】
事務局		
カンボジア経理	4/1 森川 久代	
アンゴラ経理	4/11 三條 和久	3/31 濱崎 牧子
カンボジアSVC主任	4/1 今井 洋平	3/31 高木 茂
CBD主任	1/1 佐古 壽聰	12/31 高山 良二
ラオス不発弾専門家		3/11 中塩 孝
不発弾専門家		3/11 刈屋 光喜
経理主任	4/1 濱岸 佑恵	
アフガニスタン地雷専門家		1/8 内之浦 法昭

お疲れ様でした



濱崎さん 高木さん 高山さん 中塩さん 刈屋さん 内之浦さん

## 【愛媛支部解散のお知らせ】

高山良二専門家の辞職に伴い3月31日をもってJMAS愛媛支部は解散いたしました。これまでのJMASに対する御支援に深謝申し上げますとともに高山さんの今後の御活躍をお祈り申し上げます。

## 【ご入会・ご寄附のご案内】

正会員:(個人)年会費1万円/(法人)年会費5万円

賛助会員:千円以上 寄附:制限はございません

認定特定非営利活動法人  
 日本地雷処理を支援する会  
 (国税庁長官認定:課法11-43号)

JMAS 東京事務所  
 〒162-0845  
 東京都新宿区市谷本村町3-18  
 エムズビル5階  
 TEL:03-5228-7820 FAX:03-5228-7821  
 E-mail:jmas-hq@jmas-ngo.jp  
 URL:http://www.jmas-ngo.jp



JMASへのご寄附は、寄附金控除の対象となります